

全国ウォーキングフェスティバル in 沖縄 11/2(土)午後 (ホテル~首里城~コージビーチ~ホテル)



首里城手前の弁財天堂でガイドさんより説明を受ける。首里城の地下に壕が掘られ、第32軍司令部(牛島令官)園比屋武ウタキは国王が旅の前に安全を願って
が置かれた。司令官は東京出発前に本土決戦を遅らせる為「軽々しく玉砕してはならない」と言われ、降参でなく
南部撤退を決めたとか。これが民間人も巻き込んだ撤退となり20万人が亡くなったと言われる。



守礼門。中国の冊封使団長から送られた額が飾られている。来た人を歓迎してくれる款会門。私達も歓迎されたかな。門には魔よけの獅子(シーサー)が設置されている。



漏刻門。門の上の櫓(やぐら)に水槽を設置し、水が漏れる量で時間を計ったといわれている。



西(イリ)のアサザ。ここからは東シナ海も見え、展望がよい。首里城で高く見張り所として最適だ。



城内にはガジュマルの木も生い茂っていた。



本殿手前の両側に設置されていた2体の大龍柱。本殿が完成するまでしばしの休憩か？



正殿の建て方説明がされている所を見学。屋根瓦の取り付け方の説明展示。瓦の隙間からの雨の侵入を防ぐために瓦の継ぎ目は漆喰で固めてあった。



城壁はなだらかな曲線で本土の城の角ばった石垣とは違って。これは沖縄のどこの城(グスク)でも見られた。



最後の広福門に向かった。



首里城を見学した後はアコウの大木の下でしばし休憩



急な石畳を慎重に下る。琉球石灰岩が敷かれている。石灰岩の表面は浸食され、凸凹していてなかなか手ごわかった。



金城町の石畳の下りの途中にある大アカギ。

その根元を見ると、長年の年月を生き抜いてきた、たくましさを感じられた。





金城町の大樋川(ウフヒージャー)。水道が通る前は共同井戸として利用されていたそうだ。
沖縄では、「樋川(フィージャー)」とは、遠くの水源から水路で導き樋より水が流れ出る形式をいう。



巨大なナガジュマルの木の向こうには、村役場跡があった



ひめゆり学徒の像の所。女子師範学校と第一高女は併設されていて、仲が悪かったとか。沖縄戦で240人のうち136人が死亡。なんと、悲惨な沖縄戦だったのでしょうか。学徒は13～16歳で、軍国教育を受けて「お国のためならば」と出かけたとか。教育の大切さを知りました。



街路樹にランが苔で植付けられている。

全国ウォーキングフェスティバル in 沖縄 11/2(土)夜 (コージービーチでウエルカムパーティ)

とても広い会場にたくさんのテントが。全国スポーツ祭典に参加の各種競技別にテントが割り当てられた。

生ビールは飲み放題。火力が弱く、必死で焼いていたのはバーベキュー奉行の皆さん。



沖縄の島唄を美しい声で聴かせてもらった。



エイサーの太鼓が響き、掛け声がすごい迫力だ。
町内ごとに受け継がれ、多少やり方も違うようだ。



小さい子供がステージに上がり、小さな太鼓と一緒に叩いている。



つつい盛り上がり、エイサーを踊りだす。
「沖縄に来たんだ」と実感する。



全員で一枚。でもまだ肉を焼いている。肉や野菜がたくさん残っているのに、炭の火力が弱くてなか焼けない。
たくさんの肉が余ってもったいなかった。これは貧乏人の思いか？

全国ウォーキングフェスティバル in 沖縄 11/3(日)午前 (系数アブチラガマ～百名ビーチ～ひめゆり平和祈念資料館～魂魄の塔～県庁前)



<説明看板> 系数アブチラガマは全長約 270mに及ぶ自然洞穴で、S19年7月頃から陸軍の陣地として整備が始まった。S20年3月23日南部が艦砲射撃を受け、翌24日から系数の住民約200名がこのガマに避難。地上戦が激しくなり南部への危険が迫ってきた4月下旬頃、南風原陸軍病院の分室として設置され、翌5月1日600名の患者が搬送されてきた。5月下旬、危険になり撤退。重症患者は置き去りにされた。その後も米軍からの度々の攻撃で悲惨を極めた地獄絵が展開された。



ガマの見学の後、ガイドさんより説明を受ける。 ガイドさんにこれからの見学地の説明を受ける。 知念村指定の史跡で具志堅の樋川(カー)。知念大川
 ガマの中は異臭も強烈だったとか。真っ暗で、懐中電灯をつけても、ヘルメットを天井ぶつかけたり、つまずいたりした。 を水源として S4年に住民が総栗石造りで築造。
 手記には「今もって、沖縄の鍾乳洞の奥深く、永久に発見されるすべもなく眠っている「みたま」の幾多あることを思うと、「日本国民全ての人がもう一度悲惨な戦争を想起してほしい」。



所有者のないシークワサーをもぎ取っていただく。



先のトゲトゲなのがドラゴンボールか？



各家庭にはかつて本土では柿の木、沖縄ではバナナ。



晴れていて、海がきれいに見える。白い波が立っているところが、サンゴ礁の線



とても暑い。半袖の人も何人か。熱中症に注意が必要だ。



足元の道は水がたまり、頭は木の枝が覆いかぶさる。数日前にガイドさんが見に来た時には川となっていた。



急な坂を登っていくと、

上から水が流れ落ちるきれいな池があった。これも湧き水。そこから海を眺めながら整備された道を歩く。

沖縄では、井泉(せいせん=井戸)のことを「カー」や「ジャー」と呼び、川のことを「カーラ」といって区別している。「樋川(フィージャー)」とは、遠くの水源から水路で導き樋より水が流れ出る形式をいい、井泉の中でも、浅い井戸になっているものは単に「カー」、岩盤の奥の水脈から樋(とい)で水を引いてきたものを、「樋川(ヒージャー)」または「樋川井(ヒージャーガー)」と呼ぶとか。当て字として「川」の字が使われることは多いが、井泉を指す場合のほとんどは湧き水のこと、流れ川のことではない。



木の下に手ごろな休憩場所があり、一息ついた。
眺めがよく海が見える。熱中症防止で水分を補給する。

これは沖縄固有の品種のアカバナ。
ハイビスカスは花がもっと大きい。

環境省の名水100選に選ばれた垣花樋川(かきのはなヒージャー)。村の人々はここで水汲み、洗濯、野菜洗い水浴びをしたとか。流れた水は下の田を潤し、稲作に。



ここからは急な石段。登るのは結構きつく、途中で休み
休み登る。

その上は沖縄の稲作発祥の地と言い伝えの所。
稲穂を加えた鶴が暴風雨にあつてこの地に落ちて死に
種が発芽したとの伝説がある。

門にも屋根にもシーサーが見張っている。



そこから、石畳の道を下っていくと海に出た。

全国ウォーキングフェスティバル in 沖縄 11/3(日) PM(系数アブチラガマ~百名ビーチ~ひめゆり平和祈念資料館~魂魄の塔~県庁前)



百名ビーチで弁当を開く。目の前の海を眺めながら。



岸から延びるサンゴ礁



バスに乗ってひめゆり平和記念資料館に。
ガジュマルの巨木は沖縄戦を見たのであろうか？



ひめゆり記念碑の前でガイドさんの説明を聞く。



慰霊塔の前にある穴のあいた洞窟は、沖縄陸軍病院第三外科壕の跡。沖縄の方言では、洞窟や壕のことを「ガマ」と呼ぶが、ひめゆりの塔がある「ガマ」(写真中央の穴)には、当時、ひめゆり学徒や病院関係者、住民など約 100 名がいたそうだ。しかし、解散命令後の 6 月 19 日、米軍のガス弾攻撃で 80 人あまりの方が亡くなったとのこと。





学校での写真。この後に戦場で大変なことが待っているとは思ひもなかった事でしょう。



資料館の見学の後、ガジュマルの大木の前でガイドさんの話を聞く。

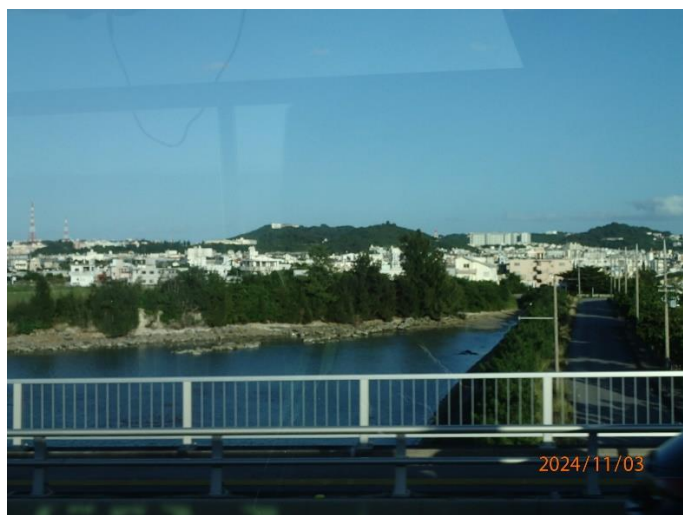


ひめゆり平和祈念資料館の見学後にバスに乗り、魂魄の塔に行く。この周辺は今サトウキビ畑だが、無数の死体があったそうでそれをこの窪地に集めたが、収容しきれず、更に上にかさ上げして塔とした。今沖縄の南西諸島では、ミサイル部隊が配備され、きな臭い。戦争を起こさない為には敵を作らないこととガイドさんから話を聞く。

魂魄の塔の名付け親、娘さんお二人が沖縄戦の犠牲になった金城村長の銅像と翁長さんの詠んだ碑



真和志村の住民は米軍の都合から帰村を認められずに摩文仁村米須に移住を命じられた。テント小屋での仮住まいながらも金城村長として戦後復興が始まったが、一帯は戦没者の遺骨が「道路、畑の中、周辺いたる所に散乱していた。米軍に遺骨の収集を申請したが認められず、ようやく認められ3万5千余の遺骨が集められたそう。一面に広がるサトウキビ畑を見ると、森山良子が歌う「ざわわ ざわわ 広いサトウキビ畑は ざわわ ざわわ 風が通り抜けるだけ…」が頭に浮かんだ。



那覇港、河川に停泊している船

国際通りの入り口で記念の一枚

夕食は県庁に近い海鮮料理「りーさん堂2号店」で。
料理3千円(7種類)+飲み物

全国ウォーキングフェスティバル in 沖縄 11/4(月) 沖縄中部の古城と村と水族館を訪れる

(ホテル→(約2時間)→美ら海水族館→備瀬フクギ並木→今帰仁(なきじん)城跡(世界遺産)→那覇空港→BiBi Hotel NAHAKUME(4名)→東横INNおもろまち)



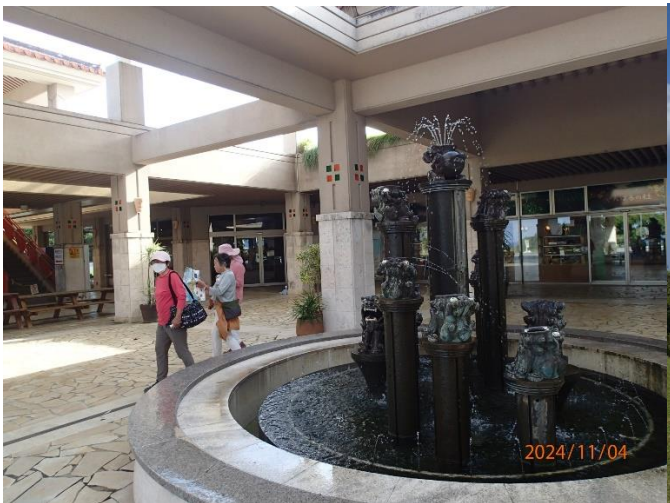
ホテルに迎えのバスがきた。7:30に出発。
今日は長いバスの旅。



途中で休憩。海が見える。



港も見えた。



美ら海水族館に到着。変わった噴水が出迎えてくれた。



向かうところが、水族館本館の入口。



水族館に入ると大小の水槽があり、魚がのびのびと



ゆったり泳ぐエイを初めて見た。



大水槽ではジンベイザメがゆったりと泳いでいる。それを見たり、映像を撮っている人の様子がとても面白い。



大水槽では潜水士が潜り水槽の内側の清掃を念入りにしていた。



本館と少し離れた所にウミガメ専用の水槽があり、私達を歓迎するかのように近づいてきた。



屋外には数種類のオブジェが展示されていた。



美ら海水族館から少しバスに乗って“備瀬フクギ並木”の村に着いた。防風林として家を取り囲むように植えられたフクギが連なっている。およそ1kmの並木道。正に沖縄の原風景といった感じで、ゆったりとした時間が流れていくのを感じながら歩いた。



途中にアイスクリーム屋さんがあり、皆で頂くことになった。集合時間が近づいていて、心の中で焦りながらでき上げるのを待った。受け取ったら、アイスクリームが垂れ落ちないように舌で舐めながら走った。



今帰仁城跡では石垣がぐるりと取り囲んでいる。沖縄の城(ぐすく)は城壁が角張っていない、なだらかな曲線となっていて美しい。



帰りに那覇空港に向かうバス。
皆さん、お疲れのご様子。



沖縄の住宅街。木造は少なくコンクリート造りが多い。
台風の風速 60m/sec に耐えるためには、強固でなくてはならないとだろうと納得する。

全国ウォーキングフェスティバル in 沖縄 11/1(木)、2AM(金)、5(火) ゆったりツアー

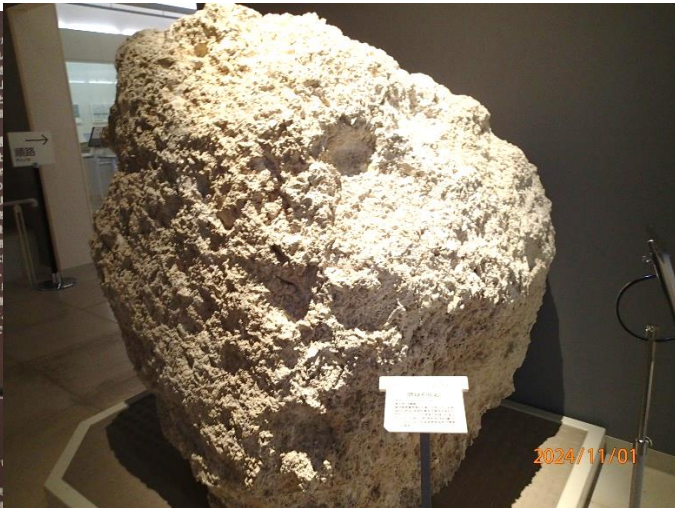
11/1(木) 夕方 沖縄県立博物館・美術館



沖縄を知るにはまず博物館で勉強しようと向かった。
金曜日は夜8時まで開催しており、無料であった。
ありがたい。

入り口を入るとすぐ海の上から覗いている展示とな
っていた。恐る恐る上に乗ってみた。

進貢船(しんこうせん)、14~19世紀中期まで行わ
れた、対中国交易・使節を派遣するために用いられた
琉球王国の官船。船首部の獅子の絵と舷側の目玉が特徴とか。



奄美のクロウサギの剥製も展示。

琉球石灰岩、沖縄はサンゴ礁でできた島。

鳥や昆虫なども展示されていた。



琉球の男性装束

11/2(金)9:00~11:00 識名園

外国使臣、中国皇帝の使者 冊封使(さっぽうし)をもてなす場としてつくられた。15~16世紀にかけての琉球は、中国、日本、朝鮮、東南アジア諸国をむすぶ中間地点に位置する「中継貿易地」として栄えていた。強大な力を持つ中国は「冊封」という独自の外交ルールがあり、貿易を行うには中国皇帝から「琉球国王」として認められる必要があり、新しい国王が即位するたびに、中国皇帝の使者 冊封使が派遣され、新国王を承認する詔書(しょうしょ)が手渡された。識名園で行われる冊封使の接待は、一番の貿易相手国である中国と良好な関係を維持するための重要な国家事業と位置づけられていたとのこと。(「おきなわ物語」沖縄観光情報 Web サイトより)



村で祈りをささげる巫女。



博物館の入り口展示されてる恐竜の前で。



外国使臣をもてなしていた「御殿(うどうん)」。最も格式の高い一番座、それに連なる二番座、三番座、台所、茶室など、15もの部屋から成る建物。沖縄伝統的な建物。



御殿から望む庭園。11月だが緑がきれい。
一日眺めていても飽きない。穏やかな時間が流れる。



屋根を支える柱は丸太そのまま。この方が丈夫かも。



見学されていた方をお願いしてシャッターを押してもらった。



中国風の東屋六角堂。「心」という字をくずしたような、
心字池。池の向こうに御殿が見える。



水を供給する育徳泉と呼ばれる天然の淡水泉。
こんこんと湧き出ている池を満たす。識名園は高台に
あるのに泉がわくとは驚きだ。



この日、識名園で結婚式を挙げるお二人。
式の前の写真撮影のために早めに識名園に到着。
この正門は国王や冊封使など高貴な人が出入りする門で
瓦屋根をのせた門の形式は格式のある家にしか許されないものだそうだ。
家来や使用人らが通るのは少し歩いたところある小さい通用門。

11/4(月) 18:00~ BiBi Hotel NAHAKUME

皆さんと那覇空港でお別れし、宿に向かった。宿泊料金が安いのが魅力だ。ホテルというより、アパートという感じで、部屋を出ると外廊下になっていた。でも新しい。



コンビニも近くにあり、庶民的な多家良食堂も近くにあった。仕事を終えた方達が食べていた。驚くほどの量で安い。沖縄在住の方に伺ったら、レンタカーは手続きにこういうところが沖縄の暮らしぶりを知るには向いている。『[たから食堂](#)』(ホテルから100m程) 時間がかかるので観光タクシーがよいと勧められた。

11/5(火) 8:00~17:00~21:00 池之上宮~斎場御嶽~中村家住宅~中城(なかくすく)城跡~海中道路と5つの島~那覇空港~羽田空港



池之上宮は琉球八社の一つで最上位にたつ。

5日目の旅の安全を祈る。

運転手さんのお勧めで海中道路とは反対方向に向かう。ここは3日、マラソン大会で通れなかったニライカナイ。



はるか向こうの島は琉球の始祖が最初に降臨した神の島と言われている久高島
斎場御嶽入口 銘文引用 斎場御嶽は「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のひとつとして、世界遺産リストに登録された。斎場御嶽「御嶽」とは、奄美諸島から宮古・八重山にいたる南西諸島に広く分布している聖地の総称です。斎場御嶽は、琉球王朝時代に政府が整備した国家的な宗教組織との関連が深い、格式の高い祭祀場でありました。せーふあ(霊威の高い聖なる場所)の名前が示すように、巨岩や聖樹に囲まれた空間には、首里城内にある部屋名と同じ名前の拝所があり、当時の王府と斎場御嶽の関わりの深さを見ることができる。」



国の重要文化財の中村家住宅を見学 昔の豪農の住まい



入り口。石塀が周りと正面にもあり、外からは家の様子がわからないようになっている。



母屋。屋根の上にはシーサーが見張っている。これに見張られたら泥棒も入りにくいだろう。



左が二番座の仏間、右が一番座の客間
家族の寝所は裏座といい、この裏側にある。



台所



豚小屋



母屋のわきにある客間

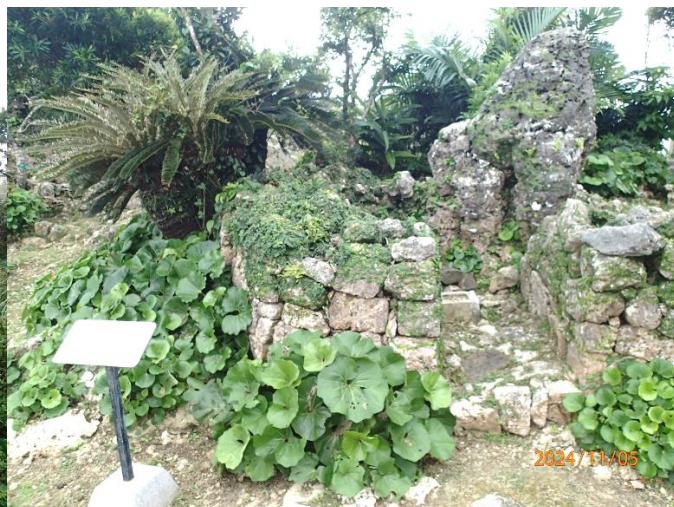
世界文化遺産の中城(なかぐすく)城跡



受付から上の方まで無料の送迎車があり助かった。



車はここまで、上を見ると高い城壁がそびえている



城内には祈りの場所があちこちにある。



城壁の曲線がきれいだ。



城壁の上を歩くことができる。
ここに身をかがめて攻めてくる敵を迎え撃ったであろう。



奥に入るには狭い門を通らなければならない。

海中道路～平安座(へんざ)島→宮城島→伊計島→浜比嘉大橋→浜比嘉(はまひが)島→海中道路



海中道路に向かう浅瀬ではパラシュートサーフィンに興じる人がいた。風がけっこうあった。

ここからが海中道路。この先の5つの島と結ばれている。島と島の間も橋でつながっている



アマミチューの墓 旧正月の年頭拝みなどで、無病息災、子孫繁栄を祈願するという。

砂浜に降りて太平洋の海の水を手ですくった

きれいなピンクの花が咲いている大木があった。トックリウタキかな？